

有珠火山の火山性地震および微動の観測*

京都大学理学部火山研究施設

有珠火山で発生する火山性地震および微動を対象に短周期地震計 3 成分による観測を実施した。観測系は、固有周期 1.0 sec、出力感度 2.8 V/kine の可動線輪型電磁式地震計 3 成分の出力を増幅し、刻時信号とともにアナログ磁気テープに連続記録すると同時に、ペン書き記録計でモニターする方式をとった。観測点は有珠火山の北麓、北側外輪山から約 1.2 km の地点である。観測期間は 1978 年 10 月 22 日から 10 月 27 日の約 120 時間で、この期間に 300 以上の地震を観測した。噴火に付随して火山性微動の発生することが報告されているが¹⁾、今回の観測期間中降灰を伴う噴火は 1 回しかなく、モニター記録紙上で明らかに火山性微動と断定できる振動は観測されなかった。しかし、人為的な noise 以外で、有珠火山に由来すると思われる振動も多数記録されている。

観測データは、現在、数値化処理の段階にあり、波形のスペクトル解析により、火山性微動の判定および火山性地震との比較が進行中である。

参 考 文 献

- 1) 岡田弘、渡辺秀文、山下済、前川徳光、横山泉 (1978): 微動と地震からみた有珠火山小噴火のメカニズム (1978 年 7~8 月)、地震学会秋季大会講演予稿集、P 176。

* Received Jan. 31, 1979